聲曲類纂 增補 角

卷之三

江戸諸流淨瑠璃語略傳系圖

淨瑠璃作者名譜

津田文庫
文庫1
1762
4

早稲田大学
圖書館藏書

聲曲類集巻之三

目録

薩摩浄雲　門人多数
江戸照高掃部頭
桜井丹波守掃部頭
島屋源次郎書
天満八左衛門
吾妻彦四郎
大坂七兵衛
南北十郎左衛門
土佐守掃部頭源次郎
虎屋源左衛門
石見掃部
江戸孫四郎
対馬要左衛門
掃部源次郎
近江大掃部
伊勢大掃部
結城孫三郎
佐渡七左衛門
村山金左衛門
丹後掃部
虎屋永家　門人
油屋義兵衛
薩摩外記　門人多数
薩摩武兵衛

010190605243

以上

江戸史論

[illegible]

羅山文集卷七十隨筆六曰

今茲五月廿八日被賓友誘導且應其主人招而往赴向陽讀畊二子馬堂内假構棚層層疊疊張帷高二丈許長數丈為傀儡之戲技也其木偶或男女僧俗或天仙神女或介士武夫或騎馬擔夫有舞蹈者有舉扇打鼓者有踊躍者有擲角棹歌者有戰兵而身首異處者有衣冠者有放矢者振捧者舉旗捧蓋傘者或為龍蛇或為飛物或為狐且擎火于尾見者皆惟之始自巳午之交至于晡其隱在棚底歌者聲有上有下有細有巨有鼓吹彈琴應於木偶之動而有曲節且操之引之且蹈抜以與者與木偶相得不異殆如生矣今日所為者江戸第一之傀師號小平太近世傀儡子此為巧手云云余思陣平以奇計解平城之圍高祖脫去史漢共稱事秘世無知焉然桓譚應劭之輩推測其側聞謂陣平為傀儡戲閑氏見其木偶婦人之美以為漢多美女單于取漢則得美人為我仇忽娼妓之心發而勤單于止戰却兵今之所觀已如常人況平之奇計傀儡子之活動乎余初以此為兒戲而少信多疑於是思其奇謀之不虛也梁鍠詩云刻木牽絲作老翁雞皮鶴髮與眞同須臾用了寂無事却似人生一夢中余想像于陳曲逆之秘計復有所感于梁鍠詩歟

傀儡子此為巧手云云余思陣平以奇計解平城之圍高祖脫去史漢共稱事秘世無知焉然桓譚應劭之輩推測其側聞謂陣平為傀儡戲閑氏見其木偶婦人之美以為漢多美女單于取漢則得美人為我仇忽娼妓之心發而勤單于止戰却兵今之所觀已如常人況平之奇計傀儡子之活動乎余初以此為兒戲而少信多疑於是思其奇謀之不虛也梁鍠詩云刻木牽絲作老翁雞皮鶴髮與眞同須臾用了寂無事却似人生一夢中余想像于陳曲逆之秘計復有所感于梁鍠詩歟

薩方の話物

其在組

人形の板

芸術の頃序

虎蒲源左衛門

享保道具尽の内江戸大さるまた屋の図

明和七年
[illegible]

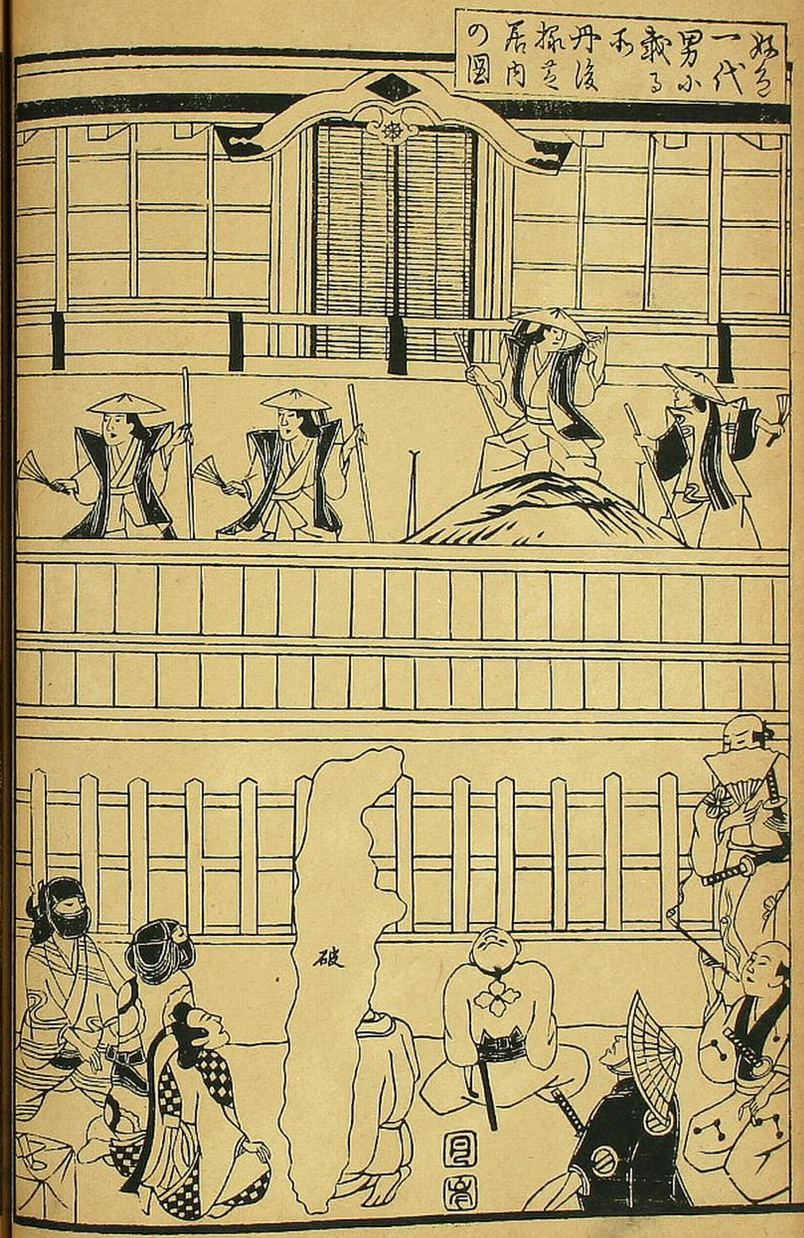
[illegible]

一天下一杉山丹後掘薬師原清麿

[illegible]

一江戸肥前掘薬師

[illegible]



一代男小説に載る丹後振袖居内の図

長門振

虎屋永周 大きまとも名せし 横さ石の
青板に大きる赤を出せしこと

住居して堀川に藤堂左衛門と無り[illegible]
[illegible]
[illegible]

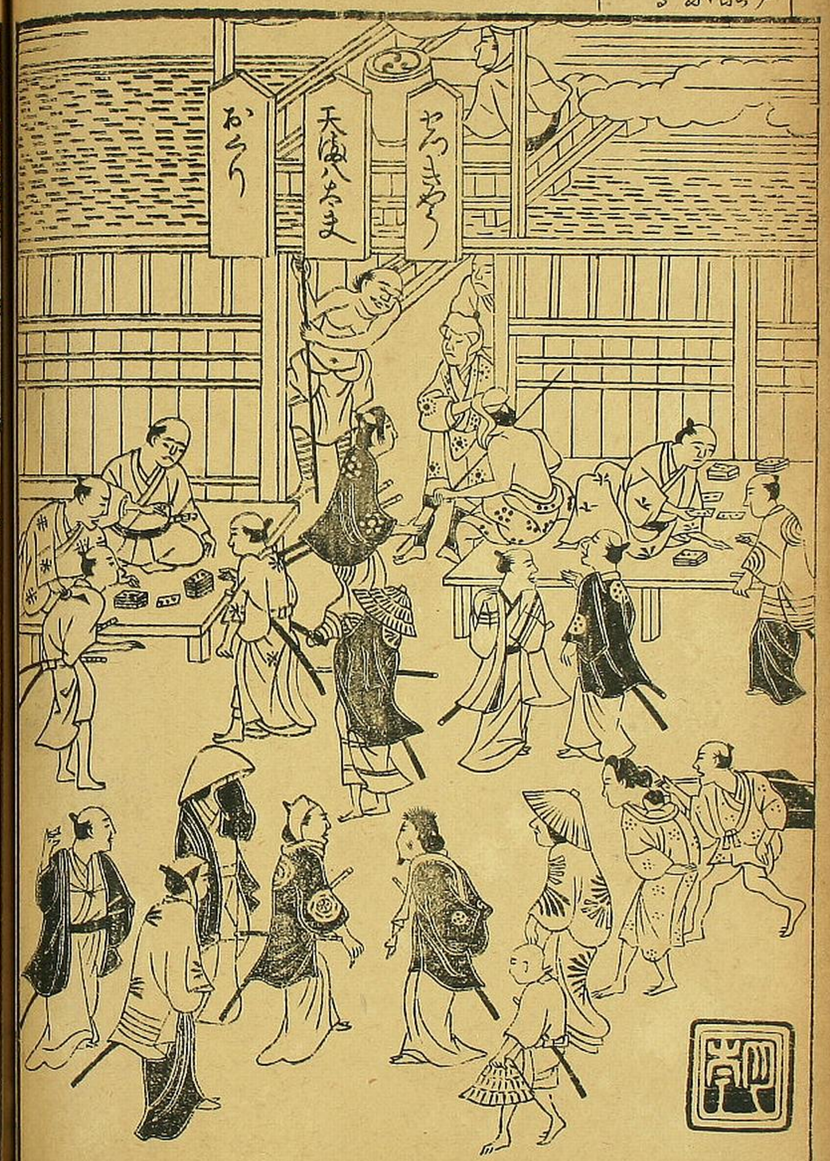
浮世時好

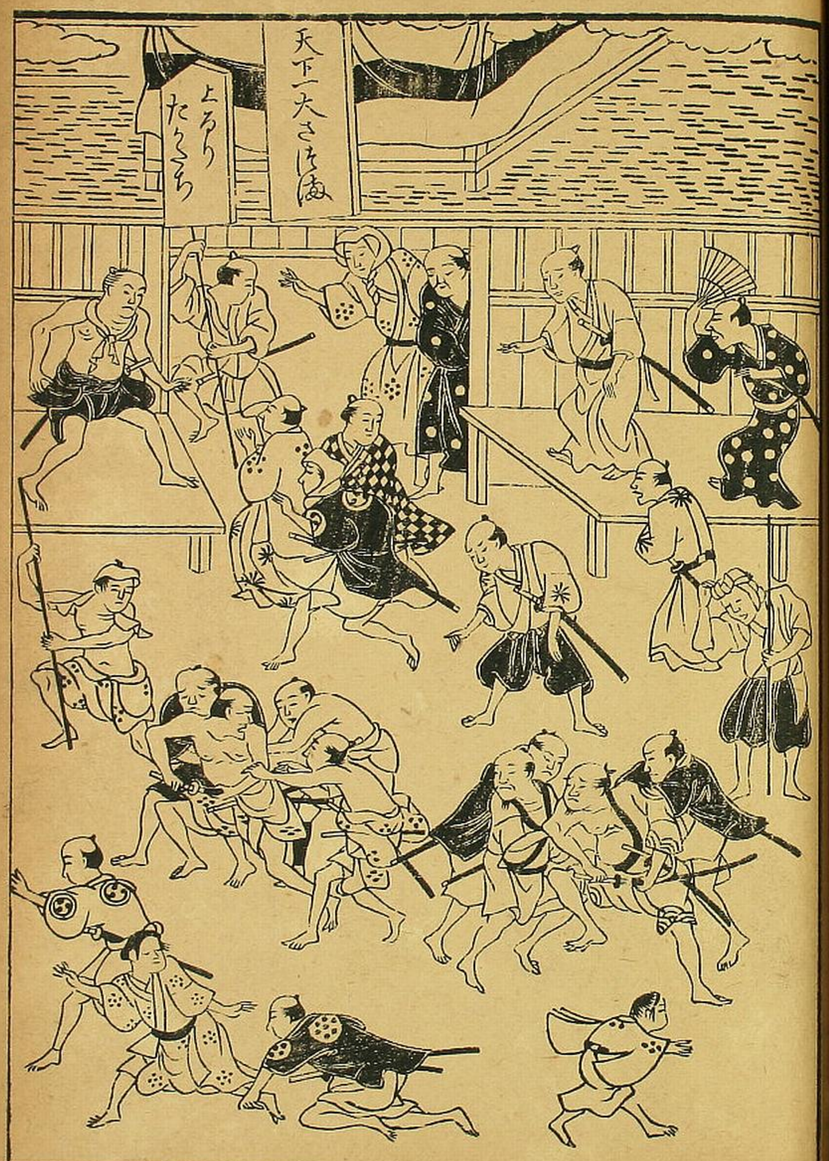
屈伸の作

丹後の節

ひな人形

江戸名所記ふ載る





右は輩世々伝譜するに依て次第を結ぶべし

佐竹

結城孫七郎　　墓所ハ下野国

同　　天下一　石見孫兵衛宗信　　堺町樟葉

同　　佐藤七郎兵衛尉　　堺町樟葉

同　　吉妻新四郎　　紀伊国

同　　江戸孫四郎

[illegible]　　堺町樟葉　　紀伊国

村山[illegible]　　同国懐町住　大坂七郎兵衛尉　　摂津国月ハ江戸

右の輩伝譜するに依て当時輝ふ譜するべし[illegible]結城十郎兵衛尉

[illegible]

對馬守藤原[illegible]　　堺町樟葉

伊勢大掾

[illegible]

南北[illegible]

[illegible]　　堺町樟葉

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　堺町樟葉

右の輩系譜するに依て次第を[illegible]

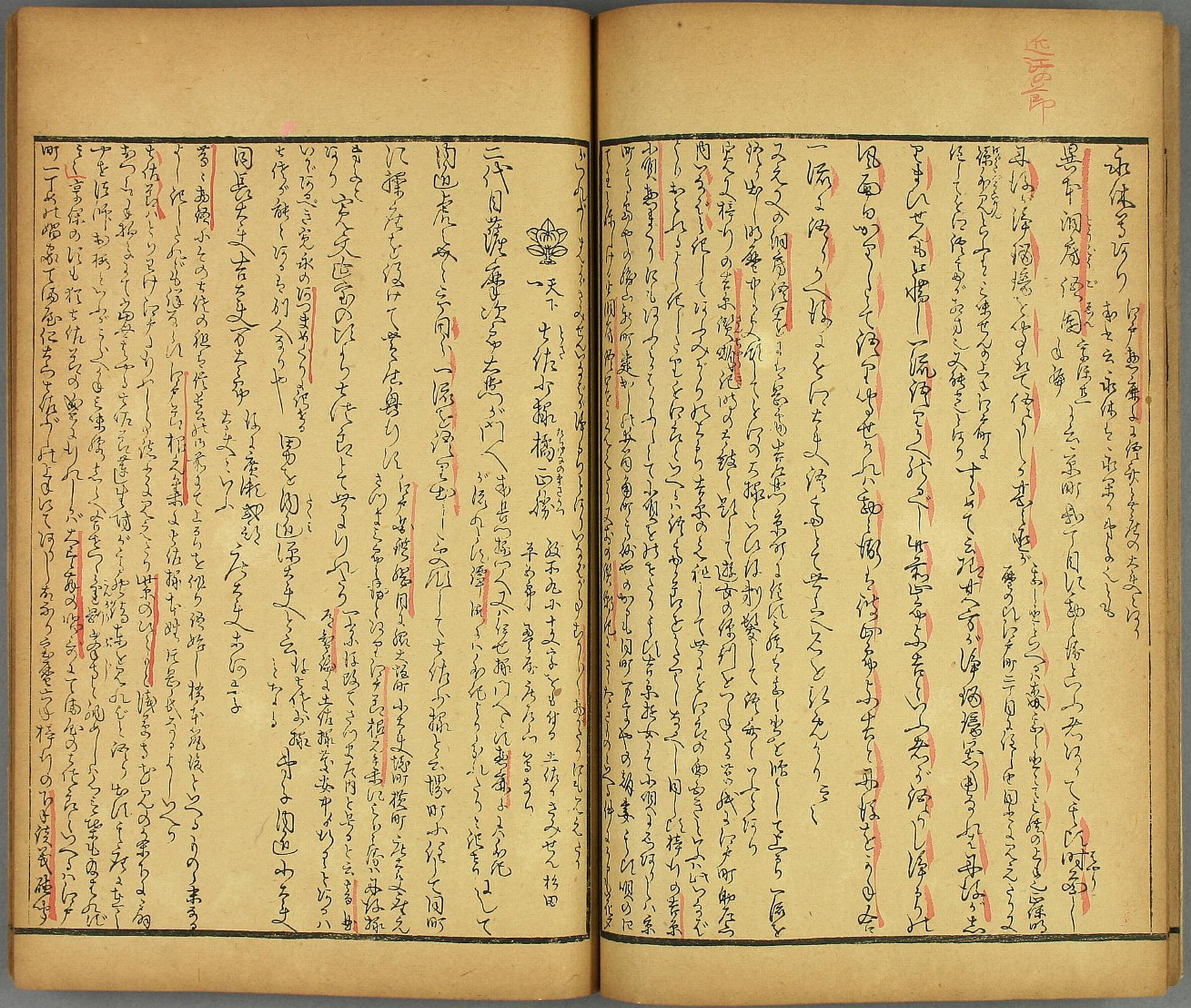
近江大掾[illegible]　　[illegible]

[illegible]

[illegible]　　外記

[illegible]

近藤



一天下　土佐小船橋四橋

二代目藤屋喜次郎作

関西者しゑ一流を汲て

沈鬱なる仕様をなりて

同長吉さま吉左衛門

土佐院宮
仲哉

海頻寺ゝみ　和田海豆　名越屋敷　現在松風

大織冠二代玉藻　紅葉狩　梅渡川　能色桜小町　光源氏神楽

雅波物語　源氏土佐　当世風俗　歌大尽　遊女舞踊

定家　土佐日記　一の谷八島　女員号尺八

中将姫　郭道風流　今様　せみ丸

花の大全　関屋　関屋天人　屋敷雅波語　百番物語

活陽寺　遊女源氏　源氏七夕通　同後源氏　柳来太夫

泰平記　貴船明重　早月十二段　相生源氏　封内名城

牧狩名城　長崎　中将姫　平仮名大全　仮頃城三国志

清玄国志　稔麿山史獄丸　今川ゞ　一石二斗の白道　桜姫清玄

金山左馬之介城　坂東安房国之山城攻　博多屋敷左馬介仮

宗名帝　事実昌源氏

祝之国盛　長城江事の段　小ちゝ清ゝ　国
名寄清の段日　帝の段日　源義経記の内　源義経二段
松竹梅日　画ひ中所　小ちゝ清ゝ　国
国定忠治　名刀妙法の段　源義経の段日　源義経記　桜姫平
清水次郎長　清水次郎長の段　世之不破　国
国中夜の学問段　国後の段　こまの源国　国
国中夜の学問段　桜姫清玄　国
虎吉お清吉の段　桜姫清玄　国
帝清の吉の湯　清ゝ　蓮生清玄
国ゝ　ゝ　ゝ　国
一休和尚の段　国ゝ　ゝ　国

関之進
陸奥

試者
弟子

三代目の源義家次男義国つぐ世のことにて
世しの紀氏にて世を流れ世を嘆町に揉方と行て世辰巳りに付人源氏富士原を
左手を源廉左内 宮保の注に悔よ羽紋 源義家 宮内
あ紀世山方を又ことりふを居奥りを方を方を人を世人を
よと拵て方を改とりとりを又仰め世を居と奥りに世目を世
源義家 の番紀を世を世を世

天下一土佐守藤原橘正勝

天下一丹波守藤原正信

天下一播磨守藤原直勝

天下一伯耆守藤原重信

天下一播磨守藤原直勝

天下一伯耆守藤原重信

世揚といふ世改の頃天下一といふ石見掾の頃

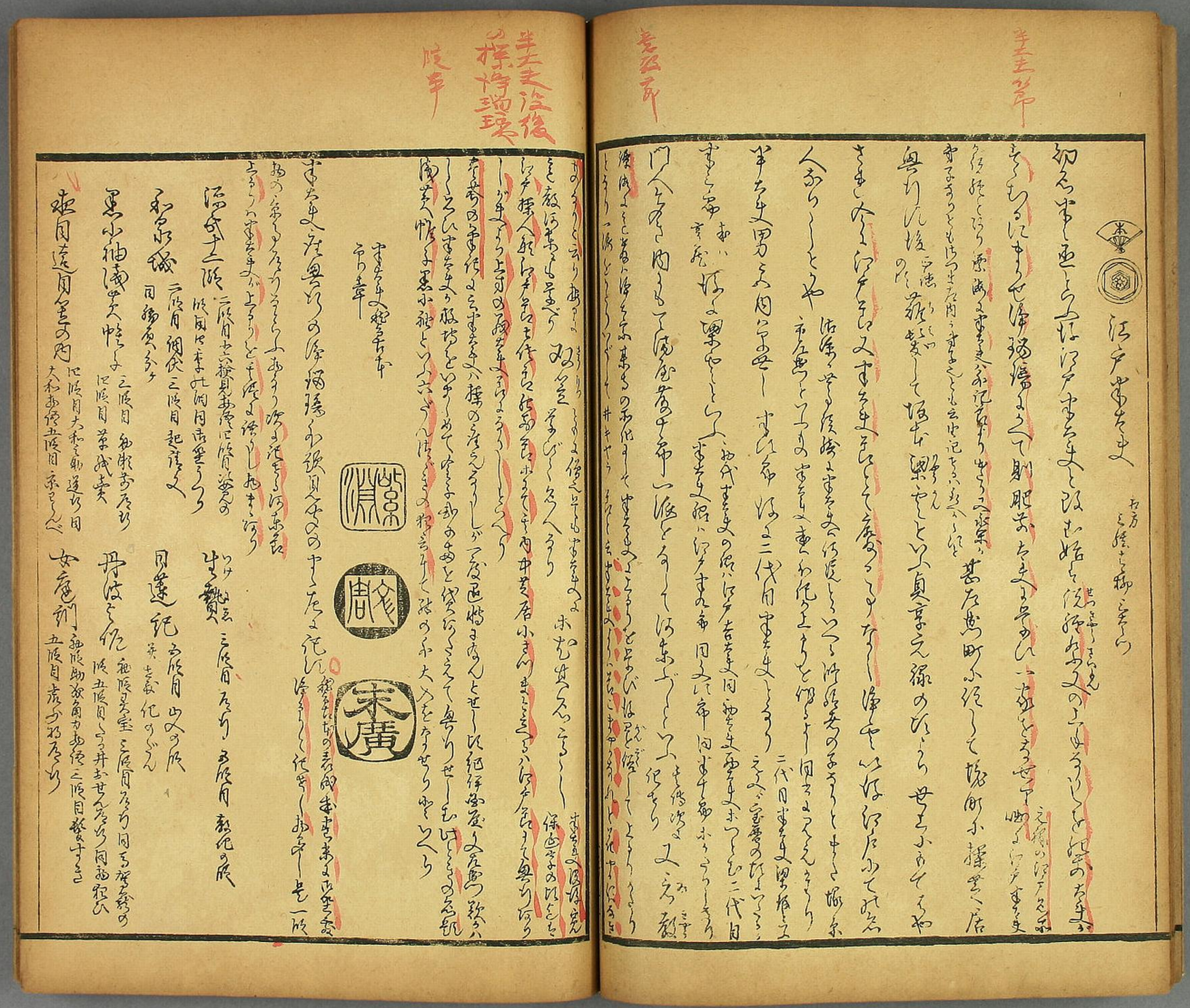
華岐美作守

美作守平宗長

自ら世を稱して一派を為す中にて若山宗と思し世に賞せらる又小倶を能

しそ山のゆえいろ

若山節



秦金吾左衛門尉殺害

中野宗士郎 三版目お妻
三版目源蔵の妻

渡辺の時 根岸肥後守信 西版源氏物語 三版目 狩野の版 芙蓉の版 芙蓉の版 芙蓉の版 狩野の版 芙蓉の版

平安城新定 四版目 茶屋 茶屋 茶屋

享保十年乙巳七月廿日

十寸見河丈
十寸見夕丈建

右の石塔は文政己巳の大災に罹りて焼失せり故に同甲申の春小生に命じて碑文を作らしめ天保癸巳四月改建せり

河東代々の墓碑

二代　河東詩坡

三代　東皇詩坡

河東

河東居士　氏伊藤又郢十寸見武州江戸品川坊之豪家也其稟跌宕不羈嗜酒遊嬉脫然破産灑不威武不能屈富貴不得淫恰有天子呼來不上船之氣象嘯嗜輒花號十寸見堂故以氏焉後適也遊梁雲門而極青於藍矣花樓月殿一開口過行雲動梁塵水則舞蛟虬山則泣夔龍日高門豪家見寵月為花街章臺見貴寔絶代之望君也行年四十有二享保乙巳秋七月廿日以病卒葬筑地本願寺堂塔成勝寺耶喪者以千數孝男夕丈君前學于門後養于家善承紹其業成一代之美家聲日月彩色已而一紀之辰立碑於本堂階側友人謹書陰

享保十年乙巳七月廿日　十寸見夕丈建

右の石塔は文政己巳の大災に罹りて焼失せり故に同甲申の春小生に命じて碑文を作らしめ天保癸巳四月改建せり

河東代々の墓碑

二代　河東詩坡

三代　東皇詩坡

河東

河東節系図

河東

葉別回

八 [illegible]

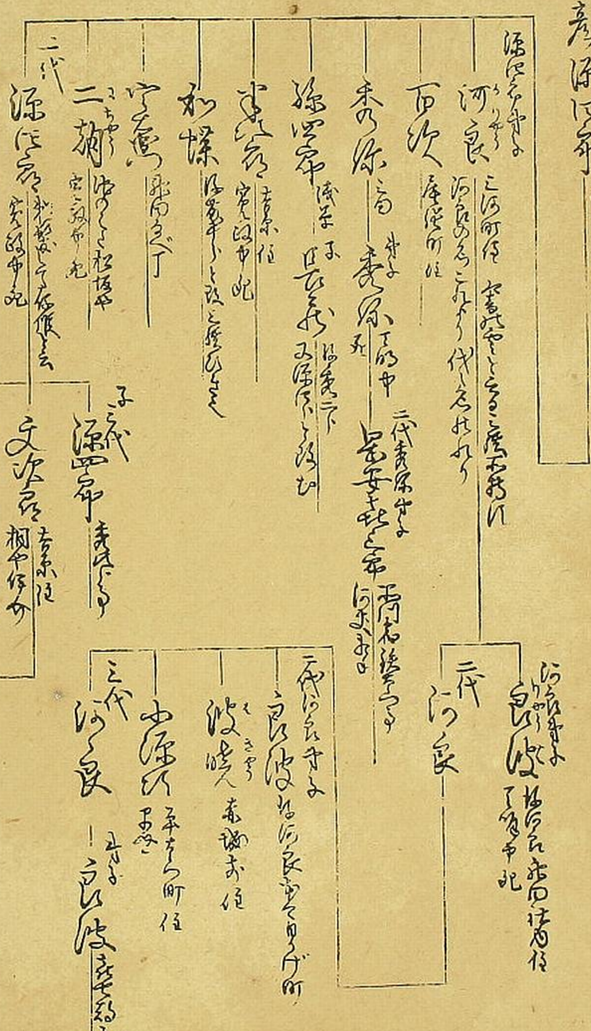
長谷九

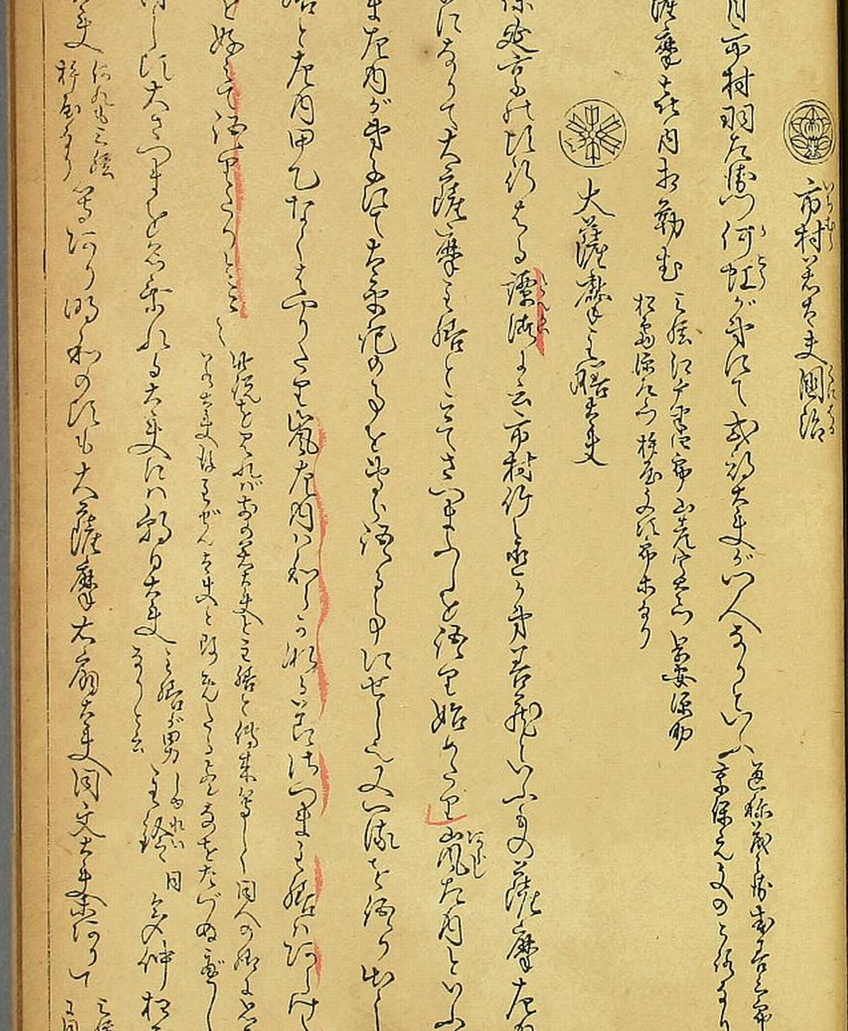
山崎家蔵書

[illegible]

[illegible]

[illegible]


二代
二代
二代
二代
二代
二代



大隅屋の[illegible]

[illegible]勇士の出[illegible]

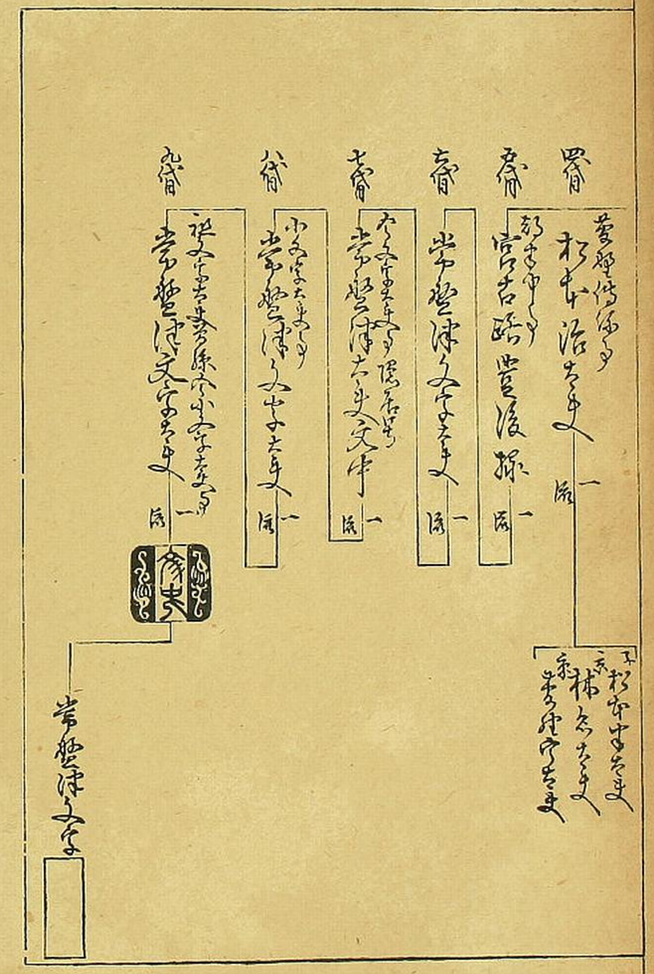
◇常豐流文字の[illegible]　代々檜物町ヨ住す

京都寺町の町人[illegible]

[illegible]

[illegible]

常盤津文字太夫系図



豊後掾

文政元年の門人にして宮薫の門人なりしを紹介して宮薫の門人冨士菊

同文政年間佐野屋文同佐野屋文同小文文

冨士国文

文政の門人にして常盤津三蓮の妹冨士菊と云へるもの紹介

文政年間文化文政文化年間文化年間

吾妻国文

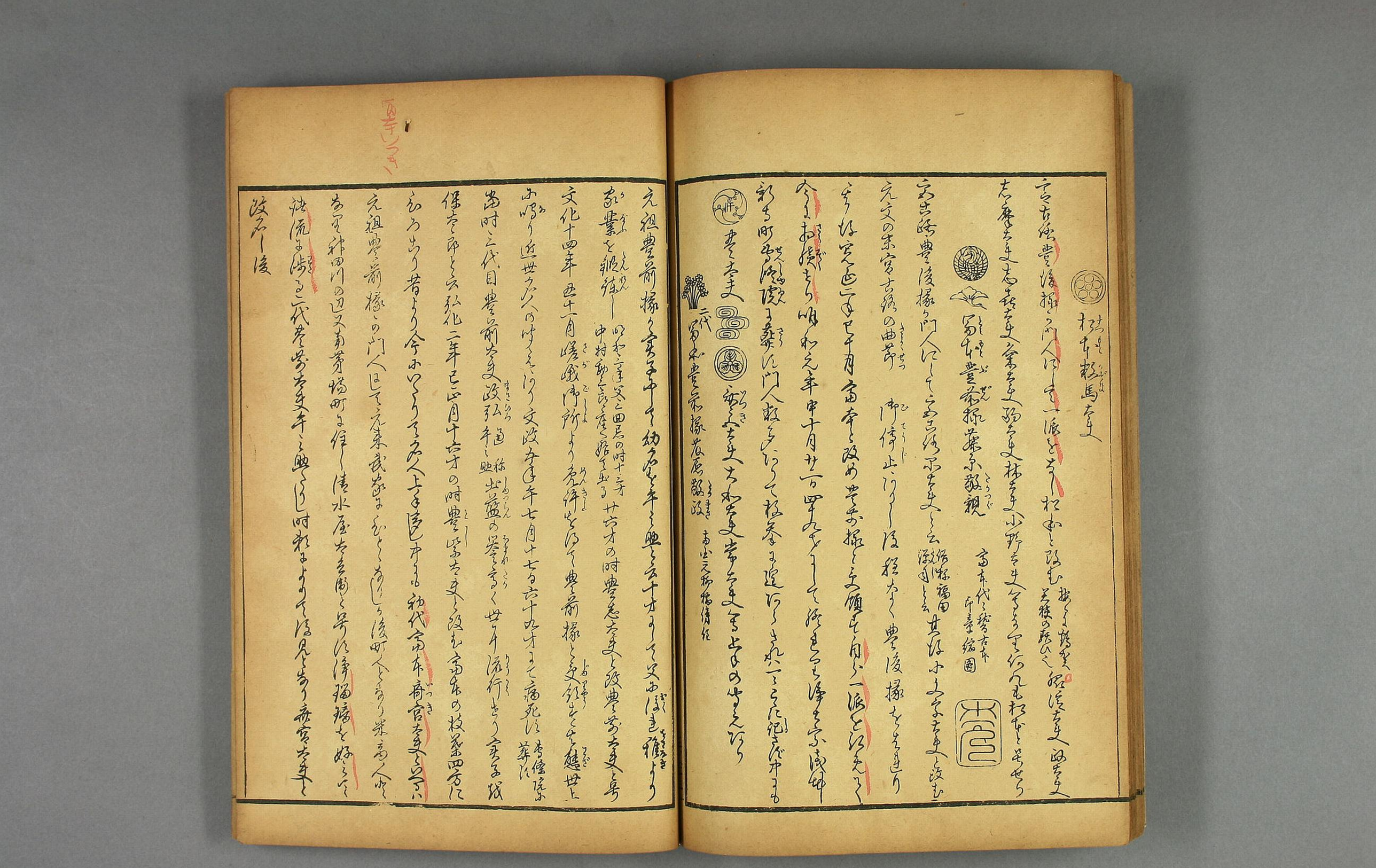
二代目文化年間文化年間文化文政文化文政文化文政

文化文政文化年間文化文政文化文政文化文政

三隈文政

文政年間文化文政文化文政文化文政文化文政文化文政

文政年間文化文政文化文政文化文政文化文政文化文政



元祖豊前掾之事中ニ幼年ニ興ル云十才ヨリ父ハ宗雅ヨリ
家業ヲ継ル　中村勘三郎父ニ田舞の時十二才
文化十四年　四十一月　嵯峨御所ヨリ免許ヲ受ル　廿六才の時豊後掾と改豊前掾と号
ホウリ近世名人の内ニ入リ文政六年七月十七日六十九才ニて病死ス　法名　華信
当時二代目豊前掾　政弘　弟ニ興　出藍の誉ヲ云く世ニ流行ヒ
俗ニ節と云弘化二年三月十六才の時豊前掾と改む富本の枝葉四方ニ
広ク出リ昔より今ホウリて名人上手ニ中ル　初代富本斎宮太夫ハ
元祖豊前掾の門人ニて元来武家ニ　紋所高人ニ
当て神田川の辺ニ有　芳恒町ニ住ス　清水屋太兵衛と号ス浄瑠璃を好ミて
世流ヲ開ク　二代芳孝太夫　年ニ興ル時ニ　初ヨリ斎宮太夫
改名ス　後

杉本杉馬太夫

二代目豊前掾　豊後掾門人

富本豊前掾　家系

敬親

富本代々譜　平素編図

二代目豊前掾　豊後掾門人

富本斎宮太夫

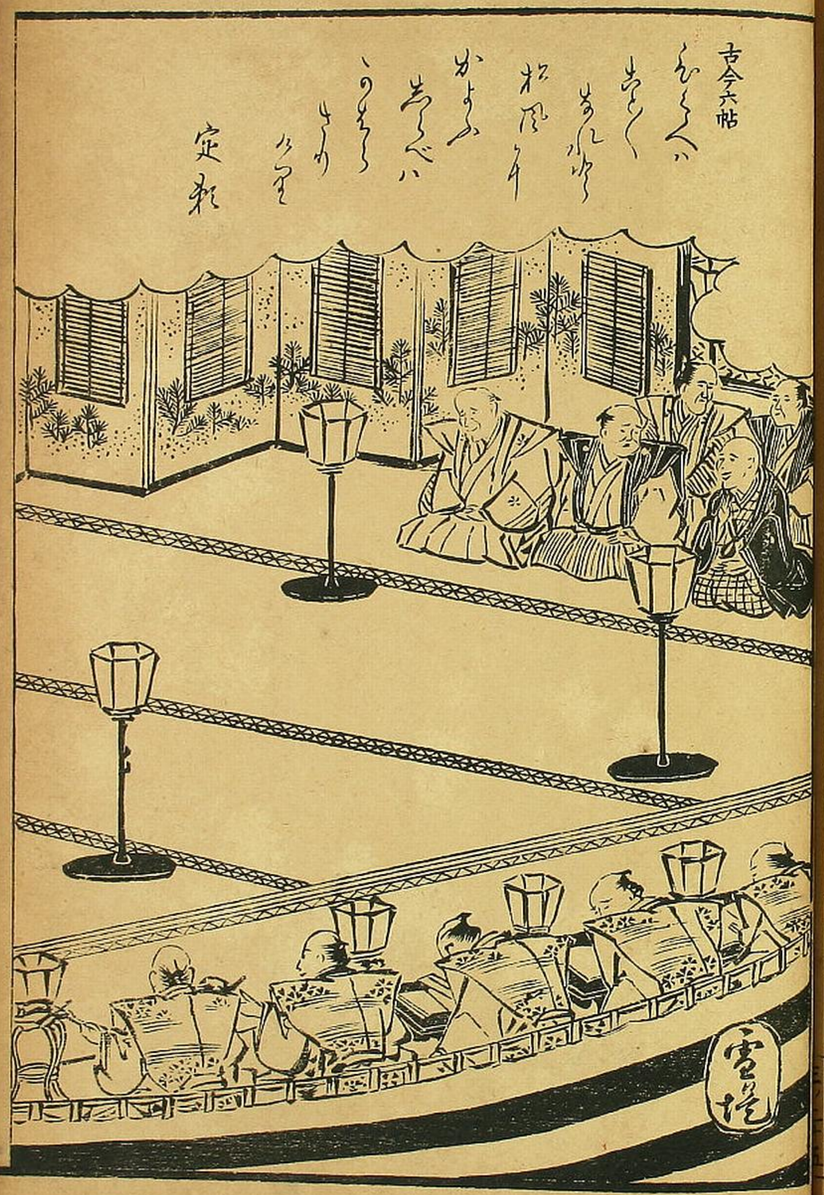
二代目豊後掾　富本斎宮太夫門人

山王神田の御祭礼には
郊外小名〻〻より
俗ら佛〻〻びきをひかせて
その笛を使はれるゥ
中ほどに豆屋団平
の面白い〻〻江戸
小唄まきてとゝ
清元の一派繁はて
新敵これら妙曲を奏
しいたして
亦るみくじ
いるまて
拝の光
大江戸

別墅にて延壽斎と号す（延壽斎の名は高野の方より賜ふ）と云ふ 享和二年（一八〇二）成斎十八日七十二才にして病に終る其所中の口碑伝なる葬儀

清元延壽斎 本石町二丁目住

樓山町に住し家業油を鬻ぎ因村屋藤吉翁の男子幼名吉五郎と呼し幼より浄瑠璃を好み延壽斎に随身して素人延壽斎の名を授り更に延壽斎の組を勤む師没して後流派を分て文化五辰年豊後掾清海（きよみ）と称し又時役者書画を嗜む 然るに清水の姓を憚り（宝暦三癸酉の年姓）改て清元と称する文化十一戌年市村座半四郎改て清元と改め清元と号し延壽斎を襲ぎ一派の曲節を語り年を世に賞せらる藤吉二世の延壽斎と云ふ改八月年五月廿六日孫娘の法名宗保川伊八と葬儀門人数多逗留せり



清元延寿太夫四十年祭の追善会を向島上屋敷で行う

清怨搦絃曲貫珠
元聞此調満東都
延招共賞陽春雪
壽席歓場待太夫

遠櫻山人

実子巳之吉家業寿太夫を継ぎ栄寿と改め世襲の行なわれる事数年に及ぶ
仏化甲辰の年亦改めて太夫となる

富士和瀧揺

家系無尽蔵揺の中小説作者

四年卯の春以分家村[illegible]

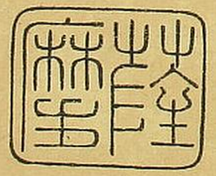
師の流を一変せん始め栄寿揺と称し後一派を浮き立て門人新内[illegible]

加賀太夫須加賀太夫佐賀太夫小国太夫加賀太夫

寿太夫加賀太夫津藩寿太夫古藩寿太夫

加賀吉加賀太郎加賀太郎加賀太郎加賀国津[illegible]八加賀吉[illegible]

敦賀太郎卯年



鶴賀栄揺揺

俗称栄揺と称す
芸号鶴賀佐吉

寿太郎加賀太夫の門人にして寿太郎と号せしが
師加賀太夫富士雪薩摩と改し時ともに中止相敦賀太夫と称し後自師と

敦賀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

芝辰と新内

鶴賀新内

[illegible]

鶴賀新内

富士見蔵屋敷の門人なり　初代は[illegible]一派なりて新内節と称し世に賞せるも後継者が門弟ふゆるに及びて[illegible]新内の一流行るゝ事[illegible]しかば[illegible]

[illegible]

[illegible]

達田屋二　吉田屋眼　三三軒　八州屋　三樂坊　樹下石上　双木亭

○江戸新吉原作者

江東節岸柳清水節　其水後節氏清水橋又を貴文ていをのみ白文
大ていこと新吉原作者　ていてはなしすのこと小説作者ゆえに清水
英文協賛楊柳橋田作文学知

玉井桂人　南北　中村清次郎
京水屋の比　京水屋の比　植口市兵衛　ちゃのこと
清水清次郎　江戸松本の作者　中村清次郎
文化のおわりの作者　二代目の作者
宮尊三百の作者　二代目の作者
の一派にて芸者の時代　芸者
もと七代目の弟子　作者
芸者の作者　作者
芸者の作者　作者
芸者の作者　作者
芸者の作者　作者
村清次郎　作者　村山十年次　玉貴小中郎　机隆　江戸西宮郎
文化保の比
松東田助　江戸西宮郎　清水次郎　清水次郎　流行　文化後
清水又左衛門　芸者　中村小長
文化保　中村清次郎　芸者　下川作兵衛　清水貴祈
の比　地誠　業作　文政三年　作者
宮尊　芸者　中村清次郎
芸者の作者　中村清次郎　清水国次　清水次郎次

機　文輝　門田伝之助

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中村宗兵衛　[illegible]

[illegible]

[illegible]